

# 普天間基地即時閉鎖を

## 沖国大・米軍ヘリ墜落19年で集い

沖縄県宜野湾市の沖縄国際大学の構内に米軍普天間基地（同市）から飛び立つたCH-53Dヘリが墜落した2004年の事件から13日で19年となりました。同

日、事件の記憶を風化させないよう墜落現場のモニュメント前で大学生が「普天間基地の閉鎖を求め、平和の尊さを語りつぐ集い」を開きました。

前津栄健理事長・学長が声明を読み上げ、激しい米軍機騒音や環境汚染など

「変わらぬ現状に慣れ感

じる」と同時に無念なりません」として、危険な普天間基地の即時閉鎖・撤去を日本両政府に強く要求しま

した。学生を代表し2人が意見

発表。法学部法律学科2年の仲宗根枝さん（21）は、「空で鉄の塊が大きな音をたて飛び回る姿は、緊張感と不安をかきたてる。平和にほ

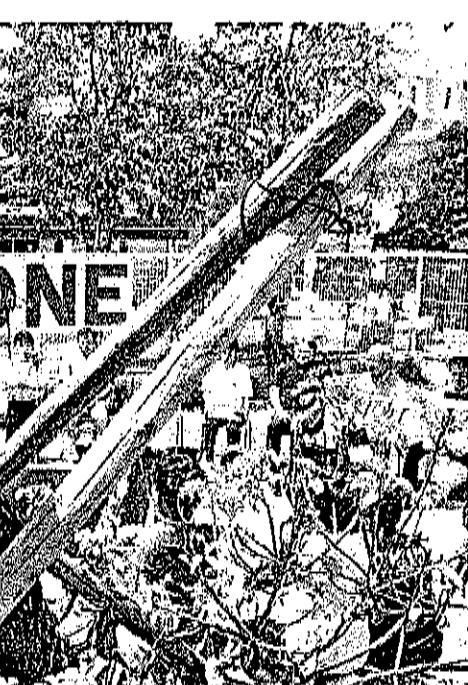
ど遠い現実だ」と指摘。「平和のために大事なことは人との意見を交わすこと。平和

をつくるのはわれわれ一人

ひとりである」という意識を持つことが沖縄の平和にもつながる」と述べました。法學部地域行政学科3年の中田未来さん（38）は、子の新疆友貴さん（21）は、

「この危険な状況に慣れてしまってはいけない。若者もになってはいけない」と強調。「人の心を動かすのは行動だ」として、基地の課題について対話や交流に取り組み、沖縄の基地問題を

19年前、機体は旧本館に激突し炎上・大破。奇跡的に人的被害はありませんでした。米軍は一方的に墜落現場を封鎖し、日本側の立開かれた「普天間基地の閉鎖を求め、平和の尊さを語りつぐ集い」。13日、沖縄県宜野湾市の沖縄国際大



米軍ヘリの墜落で焼けたアカギのモニュメントの前に開かれた「普天間基地の閉鎖を求め、平和の尊さを語りつぐ集い」。13日、沖縄県宜野湾市の沖縄国際大